1824年の英蘭条約

Dr Alexander Ressos, TEP
Attorney-at-Law (Switzerland and Germany),
Solicitor (England & Wales and Hong Kong)
Of Counsel, KGP Legal LLC
alexander.ressos@kgplegal.com.sg
www.ressos.com.sg

交渉

シンガポールをめぐる紛争は、ナポレオン戦争後のアジアでイギリスとオランダを隔てていたいくつかの問題の一つでした。両国とも解決に利益を見出していました。イギリスは、ヨーロッパにおいてフランスに対する緩衝国として、安定した友好的なオランダを望んでいました。一方オランダは、群島における地位を確保し、イギリスとの競争を抑えたいと考えていました。1820年に始まった交渉は3年間中断し、1823年に再開されました。

交渉の過程で、オランダの立場は変化しました。オランダの公文書館における研究によれば、オランダの交渉担当者アントン・ラインハルト・ファルクは、シンガポールを他の場所で譲歩を引き出すための交渉材料とみなすようになりました。そして、シンガポールを手放してもオランダ帝国にとって実質的な損失にはならないと結論づけたのです。[1]イギリス側は外務大臣ジョージ・カニングとチャールズ・ウィリアムズ＝ウィンが、オランダ側はヘンドリック・ファーヘルとファルクが代表を務めました。[2]

© 2026 Dr Alexander Ressos. General information only, not legal, tax or investment advice. No client relationship is created. All Singapore law advice is provided by a duly licensed and regulated firm of Singapore advocates and solicitors only on the basis of an express written letter of engagement. More information at SingaporeIQ.com and ressos.com.sg.

条約は1824年3月17日にロンドンで署名されました。イギリスは1824年4月30日に、オランダは1824年6月2日に批准し、批准書は1824年6月8日に交換されました。[3]

領土の取り決め

条約は、領土問題を交換によって解決しました。イギリスはベンクーレンのマールバラ砦とスマトラ島のすべての領有地をオランダに割譲し、同島にそれ以上の拠点を設けず、条約も結ばないことを約束しました。オランダはマラッカの市街と砦をイギリスに割譲し、マレー半島に拠点を設けず、条約も結ばないことを約束しました。[4]オランダはイギリスによるシンガポール占有への反対を撤回し、その見返りとして、イギリスはオランダによるビリトン島の支配を受け入れました。[5]

シンガポールに関する規定である条約第12条は、イギリスの存在の法的根拠に触れることなく、島をイギリスの勢力圏に移しました。[6]オランダは、1819年の条約の有効性を認めることなく異議を撤回したのです。会社にとっては、それで十分でした。マレー人支配者との関係における居留地の法的権原の問題は、現地で解決すべき課題として残りました。この課題は、数か月後にクロファードが完了させました。

通商規定

条約には、当時の自由貿易思想を反映した通商規定も含まれていました。各国の臣民は、現地の規則に従うことを条件として、英領インド、セイロン、東インドにおける相手国の領域で最恵国待遇を受けることとされました。[7]両国は、関係するヨーロッパの政府の承認なしに新たな居留地を設けないこと、そして海賊行為に対して共同で行動することを約束しました。[8]

© 2026 Dr Alexander Ressos. General information only, not legal, tax or investment advice. No client relationship is created. All Singapore law advice is provided by a duly licensed and regulated firm of Singapore advocates and solicitors only on the basis of an express written letter of engagement. More information at SingaporeIQ.com and ressos.com.sg.

海賊条項は、これまでの章を踏まえると注目に値します。かつてその忠誠がマレーの港の安全を保証していたリアウ・リンガ諸島の海の民は、今やいかなる実効的な政治秩序の外にありました。その後の数十年間、略奪行為はシンガポールの交易にとって深刻な脅威となりました。海賊の取締りが植民地海軍の任務となったことで、海上交通路の安全は、かつてマレーの支配者がオラン・ラウトを通じて提供していたサービスから、帝国権力が提供する公共財へと変わったのです。

ジョホール・リアウ世界を貫く境界線

条約は、後に英領マラヤとなる地域と、後にオランダ領東インドとなる地域とを、現代の国境となった線に沿って公式に画定しました。[9]この線はシンガポール海峡を通り、半島およびシンガポールをリアウの島々から切り離しました。こうして、かつてのジョホール・リアウ・スルタン国は、イギリス側とオランダ側の2つに分割されたのです。1812年の王位継承争いで対立した2人のスルタンは、境界線の両側に分かれることになりました。シンガポールでイギリスの保護下にあるフセインと、リアウでオランダの保護下にあるアブドゥル・ラーマンです。

この境界線の影響は今も見て取れます。一方の側にはシンガポールとマレーシアのジョホール州が、他方の側にはインドネシアのリアウ諸島州があります。シンガポールにあるインドネシアの富、バタム島とビンタン島の工業団地、人と資本の流れなど、海峡を越えた経済関係は、ヨーロッパの外交官がロンドンで引いた線を越えて営まれています。本書第I部では、これらの関係を検討します。

注

1. Peter Borschberg, “Dutch Objections to British Singapore, 1819–1824: Law, Politics, Commerce and a Diplomatic Misstep”, *Journal of Southeast Asian Studies*, vol. 50, issue 4, December 2019（要旨）。 ↩

© 2026 Dr Alexander Ressos. General information only, not legal, tax or investment advice. No client relationship is created. All Singapore law advice is provided by a duly licensed and regulated firm of Singapore advocates and solicitors only on the basis of an express written letter of engagement. More information at SingaporeIQ.com and ressos.com.sg.

2. Wikipedia, “Anglo-Dutch Treaty of 1824”（2026年9月閲覧）：交渉担当者はオランダ側がヘンドリック・ファーヘルとアントン・ラインハルト・ファルク、イギリス側がジョージ・カニングとチャールズ・ウィリアムズ＝ウィン。 ↩

3. Wikipedia, “Anglo-Dutch Treaty of 1824”（2026年9月閲覧）：1824年3月17日ロンドンで署名。イギリスは1824年4月30日、オランダは1824年6月2日に批准。批准書は1824年6月8日に交換。 ↩

4. Wikipedia, “Anglo-Dutch Treaty of 1824”（2026年9月閲覧）：イギリスは“Fort Marlborough in Bencoolen and all British possessions on the island of Sumatra”を割譲し、オランダは“the city and fort of Malacca”を割譲した。双方とも拠点を設けず、条約を結ばないことを約束。 ↩

5. Wikipedia, “Anglo-Dutch Treaty of 1824”（2026年9月閲覧）：オランダはイギリスによるシンガポール占有への反対を撤回し、イギリスはオランダによるビリトン島の支配を受け入れた。 ↩

6. Borschberg, “Dutch Objections to British Singapore, 1819–1824”, *Journal of Southeast Asian Studies*, vol. 50, issue 4, December 2019（要旨：第12条によるシンガポールのイギリス支配への移転）。 ↩

7. Wikipedia, “Anglo-Dutch Treaty of 1824”（2026年9月閲覧）：“obey local regulations”臣民に対する、英領インド、セイロン、東インドにおける最恵国待遇。 ↩

8. Wikipedia, “Anglo-Dutch Treaty of 1824”（2026年9月閲覧）、ヨーロッパの政府の承認なしの新居留地設置の禁止と、海賊行為に対する共同行動について。 ↩

9. Wikipedia, “Anglo-Dutch Treaty of 1824”（2026年9月閲覧）：条約は“demarcated British Malaya … from the Dutch East Indies”し、現代の国境となる境界を定めた。 ↩

© 2026 Dr Alexander Ressos. General information only, not legal, tax or investment advice. No client relationship is created. All Singapore law advice is provided by a duly licensed and regulated firm of Singapore advocates and solicitors only on the basis of an express written letter of engagement. More information at SingaporeIQ.com and ressos.com.sg.

Disclaimer

This article is provided for general information only. It is based on publicly available sources as at its date of publication. These sources have not been independently verified against licences, regulatory registers or the records of the entities concerned. It is not legal, tax, financial or investment advice. Nor is it a recommendation to invest in, transact with or use the services of any entity mentioned. Law and regulation change frequently, so the content may be incomplete or outdated. To the fullest extent permitted by law, Dr Alexander Ressos and the publisher of SingaporeIQ exclude all liability for loss or damage arising from the use of or reliance on this article. Readers should obtain advice on their specific circumstances before acting or refraining from action.

Names and trademarks of the entities discussed belong to their owners and are used for identification only. Their mention implies no endorsement, affiliation or allegation of wrongdoing. All Singapore law advice is provided by a duly licensed and regulated firm of Singapore advocates and solicitors only on the basis of an express written letter of engagement. Corrections and updates: contact@ressos.com.

© 2026 Dr Alexander Ressos. This article may be quoted with attribution to SingaporeIQ (SingaporeIQ.com). Reproduction in full and any commercial use require prior written consent. The Legal Terms at https://singaporeiq.com/legal-terms apply.

Author contact: Dr Alexander Ressos, TEP · contact@ressos.com